

# あけまして おめでとうござい ます

神埼市長 松本茂幸



市民の皆さまには、ご家族  
おそろいで希望に満ちた新春  
をお迎えのこととお慶び申し  
上げます。

さて、日本を取り巻く国際  
情勢は、アメリカ合衆国にお  
ける国際的警察力の低下と中華人民共和国の台頭によって  
両国の力が国際社会を大きく二分するようなニュースが見  
受けられ、日本の立ち位置が難しく、外交も国政運営もま  
すます混迷度を深めているように思われます。

また、地球規模での環境の変化が指摘されてから久しく  
なりますが、日本における台風、大雨による自然災害は、  
毎年襲来、発生し、広く全国に被害をもたらし、多くの人  
命を奪い、被害総額も嵩み、その復旧、復興への手間と時  
間と予算は極めて甚大なものとなっています。私は神埼市  
が幸いにも大きな災害の被害もなく、非常に恵まれた地域  
であることに感謝すると同時に、大きな災害が発生しない  
ことを願いながら、かつ、いつ大きな災害に見舞われるか

もしれないとの危惧を抱いております。

あらゆる自然災害から被害を減少させるには、市民一人  
ひとりの防災意識の上に、平素からの避難訓練への参加が  
大切であり、市民と行政が一体となった避難行動をお願い  
しなければなりません。殊に、昨年の夏の暑さは、全国で  
記録の塗り替えに次ぐ塗り替えて、熱中症による死亡者が  
多数あったことは記憶に新しいことです。神埼市では一人  
の犠牲者も出すことなく乗り越えることができたのは、冷  
房設備のある地区公民館を避難所として開放してもらえ  
るよう依頼したのに対し、すぐに対応いただいた区長さん  
方のご理解とご協力の結果だと心からお礼申し上げます。

昨年のご挨拶において、「安倍内閣の継続、アベノミク  
ス」の成就による経済活性化、働き方改革による国民の所  
得増への期待感が実現され、さらなる子育て支援の充実、  
高齢者の幸福感の実現政策などが図られることを信じてい  
たいです」と述べましたが、10月の消費税10%実施など、  
いずれもまだまだ不透明な状況にあると言わざるを得ませ

ん。

国内の少子高齢社会の状態がますます極まる中で、本市もその域を免れ得ません。年間170人前後の人口が減少し、平成30年11月末の高齢化率は30・3%（平成30年3月末では29・9%）となっています。この少子高齢化傾向を踏まえた「第2次神埼市総合計画」はすでに策定済みであり、間もなくその「実施計画」の発表を行う予定であります。いよいよこれからのまちづくり、幸せつなごうかんざき〜みんなで支え合い、誇りと笑顔あふれるまち〜を目指して、行動開始であります。

ただ、一律にまちづくりを進めるのではなく、それぞれの地区や集落の状況、要請に沿う取り組みを実施していきます。とにかく、行政だけでは、まちづくりはできません。行政と市民とが共同で進める協働のまちづくりでなくては、何一つ進めることができません。今の社会実情を、市民の皆さんに理解していただく意識の改革をお願いするとともに、シッカリとまちづくりに取り組んでまいります。

各地区、集落での「市長と語る会」、また、昨年実施した市内小中学校の保護者との「市長・教育長と語る会」の結果を踏まえ、地区づくりと子育て支援策をシッカリと取り組んでまいります。また、私自身、市政運営を預かる立場から、行政情報はもちろん、取り組み姿勢、考えなどに

ついては、市報の「市長の部屋」など発信に努め、かつ、公聴にも努めてまいりますので、ご意見、ご指導を併せてよろしく願います。

いずれにいたしましても、第一義に市民の安全安心、さらには、人生100年〳〵に合致した第2次神埼市総合計画に基づく子育て、教育、健康、福祉の向上、農林水産、商工業、地域の活性化など、広く行政サービスの着手と展開の年明けとの認識に立ち、適材適所の職員登用で、皆さんとともに励み、努め、喜びを分かち合えることを希望しています。

終わりに、今年一年が神埼市民にとって意義ある年となることを願うとともに、皆さまのご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成31年元旦



## 新年のご挨拶



神崎市議会

議長 山口 義文

新年あけましておめでとございます。

市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新年を健やかに迎えのことに存じます。年頭にあたり、神崎市議会を代表しまして、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、夏場の異常高温、度重なる台風の襲来、また7月6日は初めて佐賀県下に「大雨特別警報」が発令されるなど気象の変動が多い1年でありました。幸い神崎市において人命に関わる被害は無く安心したところではありますが、いつ大雨が降るかわかりません。日頃から防災に対する備えをしておくことが大事であると、改めて痛感したところです。

さて、全国的に人口減少や少子・高

齢化は着実に進んでおり、そうしたことに起因して社会保障費の増加をはじめ地域経済の縮小、税収入の減少、空き家や耕作放棄地の増加など市民生活に関わる問題が生じております。これらの問題に対処するには、地域再生と活性化を目指し、神崎市全体で立ち向かっていくことが必要ではないかと思

います。

昨年10月、本市の一大プロジェクトであります新庁舎の建設工事が始まりました。また脊振支所も解体され、新たに脊振町複合施設としての建設が春先から進められる予定であります。葬祭公園も計画に基づき整備されていきます。まさに市は様変わりしていくことになり、これらが神崎市発展の一翼となっていくものと願うものです。

市議会としても、市民の皆さまと一体となった住みよいまちづくり邁進する所存であります。

平成最後となる本年が幸多き年となりますよう祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 新年のご挨拶



神崎市教育委員会

委員長 坂次 利明

新年明けましておめでとございます。

市民の皆さまには、平成31年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆さまには、日頃から本市の教育行政に深いご理解とご支援を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、現在は世の中の進展が目覚ましく、また、グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応力が重要となっており、教育においても、21世紀を心豊かに、たくましく生き抜く力を育成することが重要になっていきます。そこで、教育委員会は、本市の第2次総合計画で「幸せ」あふれるまちの魅力・誇りづくり」という教育ビジョンを掲げ、また、神崎市教育の大綱では、「市民一人一人が、存在感を持って元気に学ぶ神崎づくり」を理念に掲げており、これら

の目標に向かって、神崎市の教育を推進していきたくと考えています。

学校教育では、空調設備や電子黒板の完備など恵まれた教育環境の中で「学習のきまり」の徹底を図り、ICT利活用教育、英語教育の強化・充実を進めることにより、学力向上を目指しています。また、『神崎市四か条の誓い』を活用して規範意識を高めています。さらに、グローバル化に対応するために市内全小学校の5年生に『オンライン英語』を導入し、中学校でも国際交流を通して、異文化理解や郷土を愛する心を培うことを推進しています。

社会教育では、生涯学習の充実・振興を目指しています。「いつでもどこでも 誰でも」参加できる学びの場として、中央公民館や図書館、はんぎーホールなどの利活用をすすめ、子どもから高齢者までが、いつでも学び、活動できる場や情報を提供していきます。また、『家読推進事業』を通して、家族の絆、地域の絆を深めていきます。

教育委員会は、「子どもたちの未来のために」「市民の皆さまの生涯学習のために」本市教育の充実・発展に全力で取り組んでまいります。

皆さまの今年一年のご多幸を心から祈りして、ご挨拶と致します。

# 今年の抱負

## 総務企画部

本年は、市民の皆さまのご意見・ご協力を得て、昨年策定した「第2次神崎市総合計画」に掲げる理念のもと、実施計画に基づく様々な施策を展開し、関係機関や庁内各部署と連携・調整を図りながら、市の発展と活性化につながるまちづくりを目指します。

特に人口減少対策では、若者や子育て世代を対象とした定住促進を図り、人口減少の抑制に努めます。

また、地域が行う自主的なまちづくりの活動に対する支援など、本市が地域の個性を生かした魅力あるまちとなるよう、取り組みを進めます。

新庁舎建設事業では、昨年工事に着手した事業の進捗を図り、脊振町複合施設建設事業では、本年工事に着手する予定です。

千代田庁舎整備事業では利活用計画を策定し、この計画に基づく実施設計に取り組み、地域のまちづくりの拠点として機能強化を図り、地域住民はもとより市民に喜ばれる施設となるよう事業を推進します。

葬祭公園整備事業では、平成

32年度の供用開始に向けて、葬祭場造成工事、建築・火葬炉実設計、道路整備等の事業を進めます。

防災面では、災害に強いまちづくりを進めるため、防災訓練や防災研修会などによる防災意識の向上を図るとともに、最新の防災情報を的確かつ迅速に提供します。また、消防体制の充実強化や交通安全の広報・啓発を実施し、市民の皆さまの安全安心の確保に努めます。

ふるさと納税では、昨年8月よりインターネットで受付できるサイトを拡充し、九年庵の特設公開など返礼品を充実したことで、全国から寄付を頂いており、今後も制度の趣旨に沿った運営を行い、財源の確保と地域資源の活用を推進します。

財政面では、事業の選択と集中を図り、さらに健全な財政運営に努め、新総合計画に基づいたまちづくりを進めます。

## 市民福祉部

総合窓口は、市民の皆さまに一番近い窓口として、誠実な対応で信頼を得られるよう努めます。

また、マイナンバーカードによる住民票等のコンビニ交付を実施し、カードの普及率およびコンビニ交付による取得率も上昇しており、利便性は向上している状況です。

健康医療は、「子育て世代包括支援センター」で庁内連携を図り、切れ目のない支援に努め、また、健康の基本である定期健康診査・食事・運動の推進を図ります。

国保は、県が財政運営の主体となり、順調に事業推進していきます。

環境は、「災害廃棄物処理計画」を作成予定です。

社会福祉では、保育園・子育て支援センターを拠点として、関係機関と連携した切れ目のない子育て支援の充実を図ります。

また、生活困窮者には、自立の支援の促進を図るため、新たな支援事業展開に努めます。

高齢者福祉では、住み慣れた地域で健やかに安心して生き生きと暮らすことができるよう

に、「地域で支え合う仕組みづくり」「健康づくりと介護予防の推進」「自立と安心につながる支援の充実」を基本とし、地域の公民館を活用したサロン事業を推進します。

障がい者福祉では、地域生活支援事業や就労支援を強化継続し、住み慣れた地域で「共生」協働」できる地域づくりを目指します。

## 産業建設部

農林水産部門では、地域の多面的機能が継続されるように、生産基盤である圃場や農道、農業用水路等の整備を行い、新規就農者への支援、鳥獣害対策、経営の安定を図るための取り組みなどを推進します。また、森林が持つ水源涵養や土砂崩壊防止機能などの公益的機能が発揮できるよう、災害に強い森林整備を推進します。

商工観光部門では、昨年、新たな観光拠点となる王仁博士顕彰公園が開園し、国内の都市圏はもとより、アジア圏からの誘客に努めるなど利用促進を図ります。また、地域経済の活性化を目指し、企業誘致の推進を図

市民福祉の向上のため、職員一丸となって前進していきます。市民の皆さまの温かいご理解、ご協力をお願いいたします。



▲王仁博士顕彰公園  
オープニングセレモニー

ります。

建設部門では、市民に身近な生活環境の向上に資するため、道路・橋梁などの社会インフラの整備、老朽化した公共土木施設等の長期的な対策を実施します。また、南北に長い神崎市のアクセス道路（防災避難道路）の整備や老朽化している市営住宅の建替などを検討します。

城原川ダムの建設は、国・県と連携し、さらに推進します。

下水道部門では、浄化センター増設など、公共下水道整備を推進し、浄化槽整備と併せて、快適な生活環境づくりに取り組めます。また、公営企業会計が平成32年度から導入されることから、最終的な準備・調整を行います。

《市長の部屋》

# 市民の安全安心を求めて考えること

あけましておめでとございます。

市報冒頭の年始挨拶のなかで、今年の抱負を述べたところでありますが、市政運営の基本は、これまでも、これからも、市民の安全安心であります。そこで、私の安全安心にかかると思いの一端を紹介したいと思います。

神崎市を襲来すると予想される大きな災害は、台風と大雨、また、佐賀平野北縁断層帯による大地震が考えられます。

殊に、近年、全国で頻繁に時間最大雨量100ミリを超える雨が降っています。昨年の南西方向から湿った気流が脊振山地にぶつかり、連続して発生した雨雲は線状降水帯となつて、福岡県朝倉市地域に限定的に災害をもたらしました。惨憺たる災害状況は記憶に新しいところです。

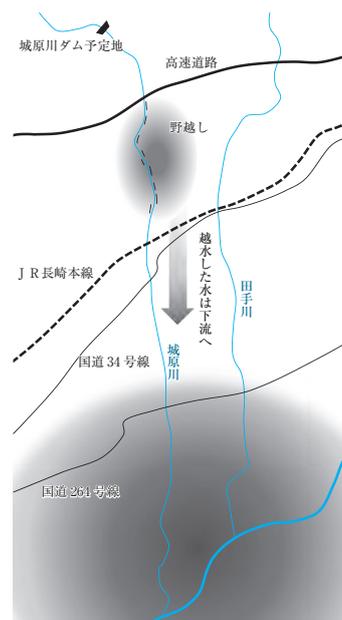
このような雨が、いつ何時、神崎市に災害をもたらすかも知れません。発生することを想定し、これに備えることが必要であると思います。

平成30年11月議会の一般質問で、議員からは大きな災害時の市民の避難方法や、共働き家庭の子どもや独居高齢者の命を守る方法を尋ねられ、その実効性あるマニュアルの策定と平素の訓練実施を求められました。確かに、大きな災害の発生を想定した防災、避難計画を考えることは大切なことでもあります。災害を完全に防止することは不可能ですが、今日までの災害を超えたものを想定すればするほど、防災への取り組みが気にかかります。



▲平成24年7月福岡県柳川市での浸水被害の様子

そこで、建設工事に向けて城原川ダムの調査が進められていますが、完成にはしばらく時間がかかると聞いています。城原



▲大雨と有明海の満潮が重なれば、広範囲で浸水被害が想定される

川の東側に7か所の野越しがあることは周知のことで、想定外の大雨であれば、当然、天井川の城原川と田手川に挟まれ、かつ筑後川堤防に接する地域に雨水は溢れることとなります。しかも、有明海が満潮時であれば、ポンプ排水では洪水を排水できず、広範囲で4メートルを超える浸水被害にあつことは必定です。市民の避難とともに、すべての財産物の避難はかたがた、車が、車両等の避難も必要です。な大型農機も同じです。

このような被害から守るために、国や県に実現可能を含め、私案をもつて働きかけてきました。今年には、方向性でも実現させたいと強い思いをもつて要請活動をしてまいります。

私案第一

市民が自家用車とともに、市南部地域からスムーズに市北部

地域の駐車場（吉野ヶ里歴史公園駐車場など）に移動できる道路（国道34号線とJRを同時に越える立体交差道路）の建設。

私案第二

地域の協力による大型農機具等の高台避難所の整備。

以上のようなことを考えていますが、具体的な実現に向けては皆さまのご意見を拝聴し、より良い建設整備を図りたいと思います。防災、減災は、自助、隣助、共助、公助と考えられますが、平素から防災、減災への皆さま自身の意識付けが肝要だと思っております。市全体の安全安心への対策、対応にかかるご理解ご協力をお願い申し上げます。

神崎市長 松本 茂幸

## 市長交際費の公表

(平成30年11月分)

項目	件数	支出額 (円)
弔慰	0	0
御祝	10	30,000
激励	0	0
会費	0	0
見舞い	0	0
その他	0	0
計	10	30,000

## 夜の市長室

○今後の予定

とき	ところ
1月8日(火)	脊振支所
2月5日(火)	神崎市役所

18:00 ~ 20:00 (1組30分程度)  
当日は来庁順です。

◎問い合わせ 総務課 秘書広報係 ☎37-0088

どんなことでも構いません。皆さまの声をお聞かせください!

12月の千代田支所開催分には、7組10人が来庁されました。

※お住まいの地区に関係なくお越しいただけます。

※荒天などの場合は、開催の有無をお問い合わせください。